

Part 2；各病態および特殊背景因子をもつ傷病者への影響

Part1 において、新型コロナウイルス感染症の蔓延が本府の救急医療体制に与えた影響について報告した。Part2 においては、緊急性の高い病態として、病院外心停止、心・脳血管疾患、消化器疾患、自損、外傷について検討する。また特殊な背景因子として小児、妊婦、高齢者について、そして、新型コロナウイルス感染症に類似する症状を有する疾患および傷病者についてもデータを解析し、新型コロナウイルス感染症の蔓延による救急医療体制への影響に関して検討を行った。

Category (2) 緊急性の高い病態の傷病者に与えた影響

CQ3-1：Out of Hospital Cardiac Arrest（病院外心停止：全般）

【方法】

2019年、2022年のそれぞれ1月1日から12月31日までのクリーニングデータから、院外心停止傷病者数について比較を行った。比較対象としてはCOVID-19流行前の2019年を基準とし、IRR(incidence rate ratio) 及び95%信頼区間を算出した。なお、年齢階層別の解析では小児(0-14歳)、成人(15-64歳)、高齢者(65歳以上)に分類した。

【結果】

院外心停止傷病者数は2019年では7,611例であり、2022年では8,773例（IRR：1.15，95%信頼区間：1.12-1.19）と増加した（図表30）。

（図表30）院外心停止傷病者数（月別）

院外心停止	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2019年傷病者数	986	711	679	612	564	504	509	476	533	565	673	799	7,611
2022年傷病者数	1036	1055	850	659	647	574	659	660	513	605	641	874	8,773
IRR (2022年vs2019年) (95% CI)	1.05 (0.96-1.15)	1.48 (1.35-1.63)	1.25 (1.13-1.39)	1.08 (0.96-1.20)	1.15 (1.02-1.29)	1.14 (1.01-1.29)	1.29 (1.15-1.46)	1.39 (1.23-1.56)	0.96 (0.85-1.09)	1.07 (0.95-1.20)	0.95 (0.85-1.06)	1.09 (0.99-1.21)	1.15 (1.12-1.19)

カテゴリー別の院外心停止傷病者数を示す（図表31）。2019年に比し、2022年では小児および成人で変化を認めなかったが、高齢者において増加した。

（IRR：1.18，95%信頼区間：1.14-1.22）

（図表31）院外心停止傷病者数（カテゴリー別）

来院時心停止(年齢別)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2019年 0-14歳全搬送傷病者数	11	5	5	6	8	5	8	9	7	8	6	5	83
2022年 0-14歳全搬送傷病者数	4	3	6	9	5	3	5	5	10	1	4	6	61
IRR (2022年vs2019年) (95% CI)	0.36 (0.08-1.23)	0.60 (0.09-3.08)	1.20 (0.31-4.97)	1.50 (0.48-5.12)	0.63 (0.16-2.17)	0.60 (0.09-3.08)	0.63 (0.16-2.17)	0.56 (0.15-1.85)	1.43 (0.49-4.42)	0.13 (0.00-0.93)	0.67 (0.14-2.81)	1.20 (0.31-4.97)	0.73 (0.52-1.04)
2019年 15-64歳全搬送傷病者数	167	121	117	113	121	130	111	101	107	132	117	139	1,476
2022年 15-64歳全搬送傷病者数	148	151	154	125	143	129	134	114	89	107	133	140	1,567
IRR (2022年vs2019年) (95% CI)	0.89 (0.71-1.11)	1.25 (0.98-1.60)	1.32 (1.03-1.69)	1.11 (0.85-1.44)	1.18 (0.92-1.52)	0.99 (0.77-1.28)	1.21 (0.93-1.57)	1.13 (0.86-1.49)	0.83 (0.62-1.11)	0.81 (0.62-1.05)	1.14 (0.88-1.47)	1.01 (0.79-1.28)	1.06 (0.99-1.14)
2019年 65歳全搬送傷病者数	808	585	557	493	435	369	390	366	419	425	550	655	6,052
2022年 65歳全搬送傷病者数	884	901	690	525	499	442	520	541	414	497	504	728	7,145
IRR (2022年vs2019年) (95% CI)	1.09 (0.99-1.21)	1.54 (1.39-1.71)	1.24 (1.11-1.39)	1.06 (0.94-1.21)	1.15 (1.01-1.31)	1.20 (1.04-1.38)	1.33 (1.17-1.52)	1.48 (1.29-1.69)	0.99 (0.86-1.13)	1.17 (1.03-1.33)	0.92 (0.81-1.04)	1.11 (1.00-1.24)	1.18 (1.14-1.22)

次に院外心停止における搬送困難事例を示す。2019年の院外心停止における搬送困難傷病者の割合は0.7%であったが、2022年は4.07%に増加した（図表32）。2019年に対する2022年のIRRは6.05（95%信頼区間：4.51-8.25）であった。

（図表32）院外心停止傷病者数（搬送困難事案）

2019年：院外心停止	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
搬送困難傷病者数	12	5	5	3	7	4	2	2	2	2	4	5	53
搬送された傷病者数	986	711	679	612	564	504	509	476	533	565	673	799	7,611
2022年：院外心停止	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
搬送困難傷病者数	31	86	53	13	9	6	19	48	14	13	20	45	357
搬送された傷病者数	1,036	1,055	850	659	647	574	659	660	513	605	641	874	8,773
院外心停止の搬送困難割合%	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2019年：院外心停止	1.22	0.70	0.74	0.49	1.24	0.79	0.39	0.42	0.38	0.35	0.59	0.63	0.70
2022年：院外心停止	2.99	8.15	6.24	1.97	1.39	1.05	2.88	7.27	2.73	2.15	3.12	5.15	4.07
OR (2022年vs2019年) (95% CI)	2.50 (1.24-5.38)	12.53 (5.12-39.74)	8.96 (3.58-28.87)	4.09 (1.11-22.43)	1.12 (0.37-3.57)	1.32 (0.31-6.40)	7.53 (1.80-66.84)	18.59 (4.83-158.42)	7.45 (1.70-67.75)	6.18 (1.39-56.59)	5.39 (1.79-21.77)	8.62 (3.41-27.94)	6.05 (4.51-8.25)

【小括（CQ3-1）】

2019年と比較して2022年では院外心停止傷病者数は増加しており、高齢者における増加であった。搬送困難となった傷病者の割合も増加した。